



2022年9月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月9日

上場会社名 株式会社 ティア
 コード番号 2485 URL <https://www.tear.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役経営企画室長
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東名
 (氏名) 富安 徳久
 (氏名) 辻 耕平
 TEL 052-918-8254

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期第3四半期の連結業績(2021年10月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第3四半期	10,006	7.9	1,114	23.5	1,109	24.3	739	29.6
2021年9月期第3四半期	9,270	1.4	901	43.0	892	42.3	570	51.1

(注) 包括利益 2022年9月期第3四半期 739百万円 (29.6%) 2021年9月期第3四半期 570百万円 (51.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第3四半期	32.99	
2021年9月期第3四半期	25.45	

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年9月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年9月期第3四半期	13,882	7,672	55.3
2021年9月期	13,539	9,022	66.6

(参考) 自己資本 2022年9月期第3四半期 7,672百万円 2021年9月期 9,022百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年9月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期		10.00		10.00	20.00
2022年9月期		10.00			
2022年9月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年9月期の連結業績予想(2021年10月1日～2022年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,070	7.1	975	9.8	960	9.4	600	10.6	26.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年9月期3Q	22,406,100 株	2021年9月期	22,406,100 株
期末自己株式数	2022年9月期3Q	1,470 株	2021年9月期	1,470 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年9月期3Q	22,404,630 株	2021年9月期3Q	22,404,630 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載した業績予想等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料予想値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、感染症の影響や資源価格の上昇等により雇用・所得環境に弱い動きが見られるものの、輸出の増加や企業収益の改善、サービス消費の回復等により持ち直しております。一方、感染再拡大に伴う内外経済に与える影響、国際情勢の帰趨と金融・為替市場の動向等、先行きに対する不透明感は拭えない状況であります。

葬儀業界におきましては、葬儀に関する潜在的需要は人口動態を背景に年々増加するものと推計されておりますが、核家族化や葬祭規模の縮小等により、葬儀単価の減少傾向が続いております。また、直近の業界環境といたしましては、葬儀件数は前年同期と比較して増加し、葬儀単価は感染症の影響に伴う葬祭規模の縮小及び法要料理の販売減により低下した状態が続いております。

かかる環境下、当社グループは顧客満足度の向上を図るべく「明瞭な価格体系による葬儀費用の明確化」「徹底した人財教育によるサービスの向上」「ドミナント出店による利便性の向上」を戦略の基本方針とし、直営・フランチャイズ出店による徹底した差別化戦略を展開しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、会館数260店舗体制をはじめとする中長期ビジョンの実現と今後の持続的な成長を目指すべく「新生ティア」のスローガンのもと中期経営計画を策定し、4項目のテーマを設け8つの戦略を推進してまいりました。新規出店の状況につきましては、直営は愛知県下に「ティア桶狭間」「ティア岡崎竜美丘」「ティア御器所」、三重県下に「ティア桑名江場」を開設し、リロケーションにより既存会館1店舗を閉鎖いたしました。また、三重県下のFC会館1店舗を直営に切り替え、「ティア桑名星川」としてリニューアルいたしました。フランチャイズでは、愛知県下に「ティア豊田中央」「ティア江南」を開設し、これにより直営81店舗、フランチャイズ56店舗の合計137店舗となりました。

売上原価におきましては、労務費等が増加したものの葬儀付帯業務の内製化を推進し、経費面では、新店稼働に伴う固定費の増加や、賃金制度改定により人件費等が増加いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は100億6百万円（前年同期比7.9%増）となり、売上原価率は前年同期比と比べ0.5ポイント低下し、販売費及び一般管理費は前年同期比4.7%増となりました。これにより、営業利益は11億14百万円（同23.5%増）、経常利益では11億9百万円（同24.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は7億39百万円（同29.6%増）となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、当第3四半期連結累計期間の売上高は79百万円減少し、営業利益及び経常利益はそれぞれ32百万円減少しております。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 葬祭事業

当第3四半期連結累計期間におきましては、「ティアの会」会員数の拡大を図るべく、感染症の予防及び拡散防止対策を講じつつ、各種会館イベントや提携団体・企業向けの営業等に取り組んでまいりました。葬儀件数におきましては、既存店の件数が増加したのに加え、新たに開設した会館の稼働により、前年同期比11.8%増の10,672件となりました。葬儀単価におきましては、葬儀付帯品の単価は改善したものの、祭壇売上、供花売上の単価がそれぞれ低下し、前年同期比2.7%減となりました。この結果、売上高は96億98百万円（同8.2%増）、営業利益は17億74百万円（同19.3%増）となりました。

(b) フランチャイズ事業

当第3四半期連結累計期間におきましては、FC会館が前年同期と比べ1店舗増加したことによりロイヤリティ売上が増加し、また、収益認識会計基準等の適用により加盟料売上が増加しました。この結果、売上高は3億7百万円（同0.8%増）、営業利益は54百万円（同7.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は37億19百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億43百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が1億53百万円増加したことによるものであります。固定資産は101億62百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億99百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が2億27百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、138億82百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億42百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は40億44百万円となり、前連結会計年度末に比べ15億57百万円増加いたしました。これは主に未払法人税等が1億35百万円減少したものの、契約負債が17億18百万円増加したことによるものであります。固定負債は21億65百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億35百万円増加いたしました。これは主に長期借入金が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、62億10百万円となり、前連結会計年度末に比べ16億93百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は76億72百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億50百万円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益7億39百万円及び剰余金の配当4億48百万円、収益認識に関する会計基準等の適用に伴う利益剰余金期首調整16億42百万円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年9月期の通期連結業績予想につきましては、第4四半期会計期間に「直営会館2店舗の開設」「追加の営業促進費用」「人事制度改定に伴うコンサルティング費用」「DX関連費用」等を予定していることから、前回発表予想(2022年5月12日に公表)を据え置いております。また、「配当予想」におきましても前回発表予想からの変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,867	3,020
売掛金	384	—
売掛金及び契約資産	—	386
商品	49	64
貯蔵品	69	62
その他	209	188
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	3,576	3,719
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,235	6,562
土地	1,516	1,561
その他(純額)	739	595
有形固定資産合計	8,491	8,718
無形固定資産	59	57
投資その他の資産		
差入保証金	911	918
その他	505	470
貸倒引当金	△4	△3
投資その他の資産合計	1,412	1,385
固定資産合計	9,963	10,162
資産合計	13,539	13,882
負債の部		
流動負債		
買掛金	282	288
短期借入金	351	500
1年内返済予定の長期借入金	419	444
契約負債	—	1,718
未払法人税等	280	145
賞与引当金	214	112
資産除去債務	29	—
その他	909	834
流動負債合計	2,486	4,044
固定負債		
長期借入金	992	1,106
役員退職慰労引当金	0	0
資産除去債務	675	719
その他	360	338
固定負債合計	2,029	2,165
負債合計	4,516	6,210
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,873	1,873
資本剰余金	1,506	1,506
利益剰余金	5,643	4,292
自己株式	△0	△0
株主資本合計	9,022	7,671
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	0
その他の包括利益累計額合計	0	0
純資産合計	9,022	7,672
負債純資産合計	13,539	13,882

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
売上高	9,270	10,006
売上原価	5,566	5,959
売上総利益	3,703	4,047
販売費及び一般管理費	2,801	2,932
営業利益	901	1,114
営業外収益		
受取利息	2	2
広告料収入	12	6
受取家賃	3	5
その他	8	10
営業外収益合計	27	25
営業外費用		
支払利息	19	17
支払手数料	13	3
その他	3	8
営業外費用合計	36	29
経常利益	892	1,109
特別損失		
減損損失	45	—
特別損失合計	45	—
税金等調整前四半期純利益	847	1,109
法人税、住民税及び事業税	265	299
法人税等調整額	11	71
法人税等合計	277	370
四半期純利益	570	739
親会社株主に帰属する四半期純利益	570	739

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	570	739
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	0
その他の包括利益合計	△0	0
四半期包括利益	570	739
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	570	739
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、主要な財又はサービスの収益は、以下の方法により計上しております。

(1) ティアの会入会金

ティアの会入会金については、従来は入金時に収益を認識しておりましたが、財又はサービスが提供されたときに収益を認識する方法に変更しております。

(2) 加盟料・出店料収入

F C加盟店からの加盟料、出店料については、従来は契約開始時に一括して収益を認識しておりましたが、履行義務の充足に係る合理的な期間を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識する方法に変更しております。

(3) 葬儀売上

葬儀売上については、従来は役務の提供完了時点で収益を認識しておりましたが、当該履行義務に係る進捗度を見積ることにより一定期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項のただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は79百万円減少し、営業利益及び経常利益はそれぞれ32百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は16億42百万円減少しております。

収益認識会計基準を適用したため、第1四半期連結会計期間より前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、「売掛金及び契約資産」に含めて表示し、「流動負債」に表示していた「その他(前受金)」は、「流動負債」の「契約負債」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	葬祭事業	フランチャイズ 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,965	304	9,270	-	9,270
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	-	0	△0	-
計	8,965	304	9,270	△0	9,270
セグメント利益	1,487	58	1,545	△643	901

(注) 1. セグメント利益の調整額△643百万円には、セグメント間取引消去△0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△643百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「葬祭事業」セグメントにおいて、リロケーションが決定した店舗に対し、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は45百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	葬祭事業	フランチャイズ 事業	計		
売上高					
葬儀施行関連	9,656	-	9,656	-	9,656
その他	42	307	349	-	349
顧客との契約から生じる収 益	9,698	307	10,006	-	10,006
外部顧客への売上高	9,698	307	10,006	-	10,006
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	-	0	△0	-
計	9,699	307	10,006	△0	10,006
セグメント利益	1,774	54	1,828	△714	1,114

(注) 1. セグメント利益の調整額△714百万円には、セグメント間取引消去△0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△714百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。